

今年度も補助事業を受託

当NPOでは、国の「ふるさと雇用再生特別基金事業」に基づき北海道空知支庁が公募した「そらち『炭鉱の記憶』活用地域ビジネス展開事業」を受託し、昨年8月に岩見沢駅前ですらち炭鉱の記憶マネジメントセンターを開設するなど、活動の幅を格段に広げてきました。

今年度も、空知総合振興局（＝空知支庁から組織変更）から補助事業を受託することができ、4月1日に事業総額17百万円の契約を調印しました。

この補助事業は、離職した失業者等の雇用機会を創出するため創設された制度で、事業費の1/2以上を人件費に充てるのが条件となっており、単年度契約ですが最長2011年度末まで継続されます。

そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターには、昨年度（8～3月）に1,257名の来場者があり、その数は次第に伸びてきています。今年度も、昨年度と同じ顔ぶれの4名を雇用し、炭鉱の記憶の一層のアピールと活動の充実を図って参ります。

石蔵^ホで博物館展を開催中

そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター石蔵ホールでは、5月31日（月）まで、空知各地の博物館・記念館・資料館を紹介する展示を開催しています。

空知には、自然・文化・歴史系の博物館に加えて、炭鉱の歴史と重なる郷土史を調査研究する施設があり、オンシーズンを迎えてさまざまな企画が予定されています。

今回の展示は、各地にある博物館を網羅して、その概要と特色を横並びで紹介するという、これまでにない企画です。これによって、来館者が新たな関心を持ちたり、知識を深めたいと思うきっかけになるなど、単館の展示では得られない価値を生み出すものと期待しています。

また、連休に合わせた開催により、小中

ご来場お待ちしております！ そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター

■カウンター／執務スペース

対面式カウンターのように事務局員の机を配置し、限られたスペースで、センター業務の執務と管内情報の提供など情報受発信の双方を行うことができるよう配慮されています。

■交流スペース

壁一面を占めるパンフレットラックの横にカフェ風に円卓を、奥部の天井高が低い場所には打合せスペースを配置し、来訪者の交流を図りやすいスペースを創造しました。3月には、壁面に大型液晶テレビを設置しました。

■展示スペース／石蔵

歴史的建造物である石蔵倉庫は、展示や会議スペースとしての多面的な活用が可能です。かつて商品倉庫として使われていたため、内部は2層構造となっており、壁面展示スペースを多くとることができます。ベニヤ天板を撤去して建物躯体の木骨構造を露出させ、歴史的建造物としての価値を実感できるようにしました。

■展示スペース／ロフト

交流スペースから階段を昇った場所にあるロフトは、事務所面積の半分程度の空間があり、テンポラリーな展示スペースとして活用しています。



〒068-0863 岩見沢市1条西4丁目3 ☎0126-24-9901
火曜日定休（祝日の火曜日は開業）
[4～10月] 10:00～18:00 [11～3月] 11:00～17:00

学生や親子連れなど広く一般市民の来館が増える予想されるため、今回の展示で興味を持った施設に夏休みの自由研究などで足を運び、地域の面白さを再発見する効果が期待できます。

展示内容は、各博物館の概要と特徴を示した大判パネルやポスター、持ち帰り用のパンフレットのほか、一部施設より借用した道具や化石レプリカ、石炭ストーブなどの収蔵品です。さらに、三笠市出身のアーティスト川俣正氏の作品である大型木馬を正面に配置することで、展示に迫力と立体

感が加わります。掲示した大判パネルに、来館者の視点から見た各施設の特長や見どころを自由に書いて貼り付けてもらうなど、参加型の展示にする工夫を凝らします。



住友奔別炭鉱出身の川俣正さん

毎日更新! スタッフブログ

空知各地の動きやセンターの様子を伝えるブログを、スタッフが交代で毎日更新しています。

ブログランキングでは3~6位という上位を常にキープしており、「いつも見ている」という常連も増えつつあるなど、徐々に注目が高まってきています。

検索サイトで「そらちヤマの記憶」と入力して検索すると一発で見つかります。是非、ご覧下さい。

● <http://yamasoratan.blog62.fc2.com/>



道から三笠・赤平に職員派遣 炭鉱の記憶を担当

4月の人事異動で、三笠市・赤平市に道職員が派遣され、炭鉱の記憶を担当することになりました。

三笠市へは、総務部人事局から渋谷和司さん(38)が、企画経済部企画振興課企画係主査として。赤平市には、環境生活部道民活動文化振興課から宮本哲也さん(37)が、企画財政課炭鉱遺産活用担当主査として着任しました。

炭鉱の記憶の活動開始から12年を経て、自治体に担当職員が配置されるまでになったのは、活動の成果の一つと言えます。

また、空知総合振興局や各自治体でも担当職員の異動があったため、炭鉱や炭鉱の記憶の活動経緯を理解してもらおうと、4月21日~23日の3夜連続で、行政の関係職員や管内NPOメンバーを対象に、「初任者のための炭鉱講座」をセンターで開催しました。4月の異動で新たに着任した羽貝敏彦空知総合振興局長をはじめ、3日間で延べ約90名の方にご参加頂きました。

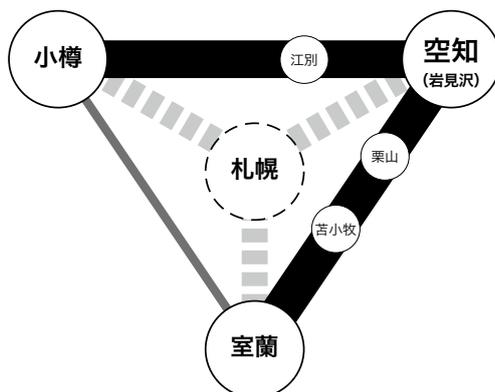
今年夏の企画は… 北海道近代の三都物語

今年夏の企画として、北海道の近代を作ってきた《空知》-《小樽》-《室蘭》を結ぶ軸線をクローズアップする取り組みを構想・準備しているところです。

この3拠点を北海道の近代産業という視点で結んで、「北海道を形作った三都物語」をクローズアップしようというものです。

7月下旬~10月末までに、3拠点を中心に、これら拠点を結ぶ軸線上の地域も含めて、15~20の関連催事を展開する予定です。歴史的には強いつながりがありながら、これまで関連性を意識した取り組みが行われてこなかったため、道内外や札幌圏の方々だけではなく、3つの拠点到住む方々に、歴史的な意義と地域の成り立ちを認識して頂き、新たな人の繋がりを作りたいと思っています。

詳細が決まり次第、会員の皆さまにはご案内を差し上げます。



3つの拠点から火の手をあげて
人が動き回る場と機会を設定し
近代北海道の原点を認識する
流れをつくる

▼ドイツ・ルール地域の炭鉱遺産

ドイツ各地に多くの保存鉄道がありますが、ルール地域には炭鉱で使っていたトロッキを専門に集めた特徴的な鉄道があります。Muttenthalbahnは、最も古い炭鉱地帯にある州



立博物館の近くにあり、博物館来館者にとってもちょっとした楽しみになっています。運営は鉄道ファンのボランティアで行われており、親子連れで運行業務にあたっている微笑ましい光景を見ることができます。

